

地球市民の共生に向けた協同活動デザインの可能性

～地球共生ワークショップ実践からの考察～



白鳥 武

摂南大学 理工学部 住環境デザイン学科
地球共生デザイン研究室

2020年 今日の脅威

難民問題

国家主導の
迫害・侵略

民族紛争

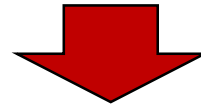


国連等の

国際機関の**矛盾**・国際合意の**破棄**・国際規範維持の**危機**



一例) 国際平和と安全の維持において重要な役割を担う安全保障理事会の不平等、利己主義の定常化



このような中増々、

「一般の地球市民が自ら」能動的に、
相互に共生を先導し実践しないといけない

環境問題

コロナを巡る格差

覇権争い

人権問題

国連、SDGs、平和の祭典オリンピック等、 その在り方を継続的に問わず 盲目的に推進することへの危惧

- 国連の常任理事国に代表される**強国の蛮行**に人々は今も苦しんでいる
- 建前と裏の思惑の二面性を常とする国際機関は**持続可能ではない**。

例) 国連は何の為？オリンピックは誰の為？

- わが国は特にこの二つの事実に対する議論を無視して、スローガンを鵜呑みにして進めようとする学者・研究者が多すぎる。

強大な権力を振りかざす国家や為政者、システムの蛮行に
我々の「平和と調和的な共生」はどのように推進できるのだろうか。

「一般の地球市民が自ら」能動的に、
相互に共生を先導し実践しないといけない



Initiate（始動・創始）の仕方を知らない



地球共生
ワークショップ

「協同機会」と「共生阻害問題解決デザイン/プロジェクト」の普及

文化と価値において平等な関係構築



多様な側面から学び・学ばれる関係構築

協同から、地球共生概念・哲学と実践への理解を相互に深める

岩間・山西(1996). わかちあいの教育

- 地球時代の原理に基づく「共生の教育原理」



- 一つの地球の中で限りある資源をお互いにわかちあって生きなければ生存できない
- 争いなく「**互助の精神**」で平和に暮らさなければ、地球の未来はない
- 競争ではなく**文化尊重・助け合い・励まし合い**

社会変革の兆しと必要性の一方で：

「**統一した理念のもとに語られていない**（岩間1995）」。

- 哲学者 花崎 皋平著の「アイデンティティと共生の哲学 (2001)」
「生きる場の哲学 (1981)」から比較照合してみる



「哲学的省察」と「実践活動」の**同時進行**
体験と実感からなる経験の思想化。



現代に人と人とのつながりを回復する新しい知のあり方
を**獲得する独自のアプローチ**



言葉を越えた「共感」がつくり出す**絆の確かさ**

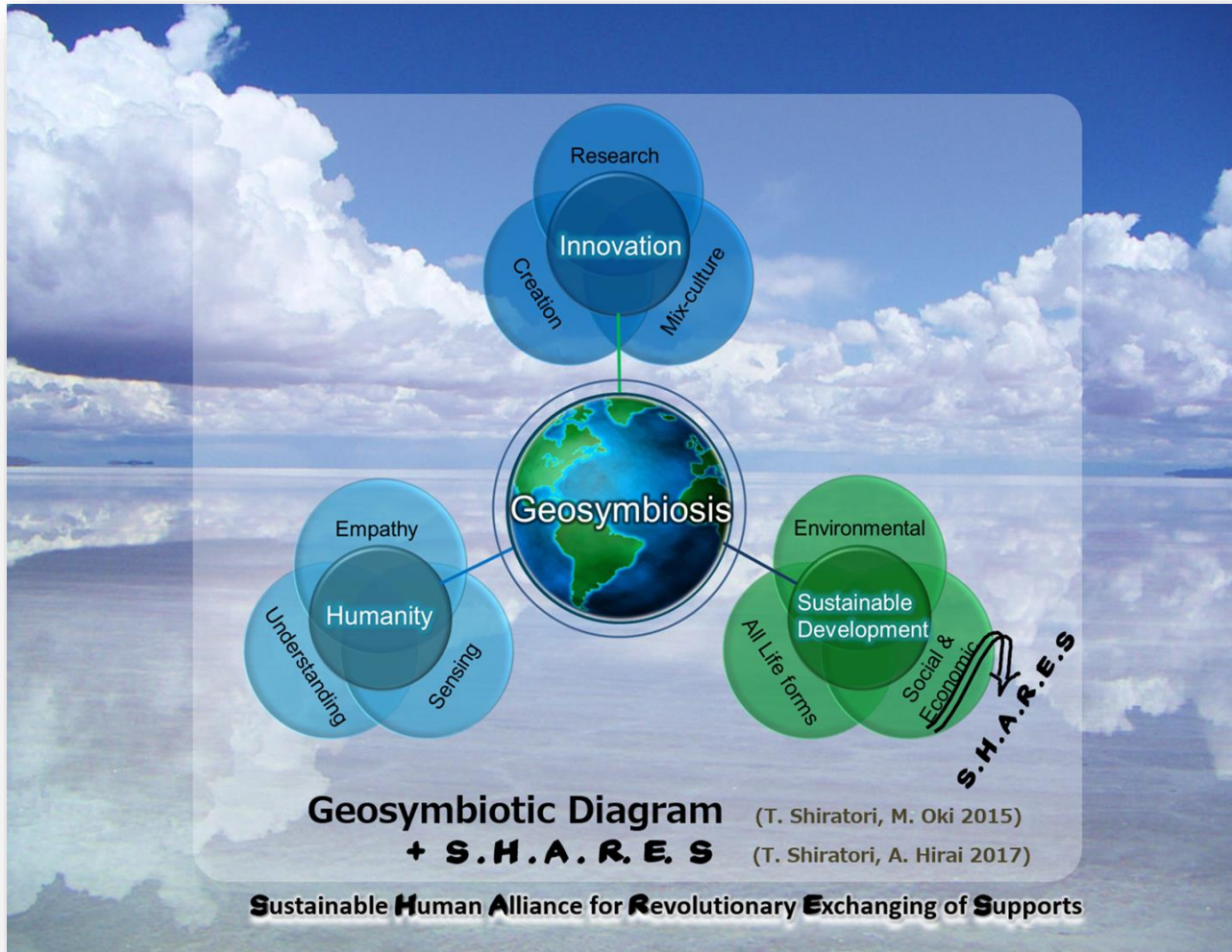
- 国籍、民族、性の壁を越えた“ピープル”として、理論と実践とを常に往復し、新しい普遍性の追求を提唱

観念的理想を掲げて現実から眼をそむけ、超然としている場合その理念は傷つくこともないかわりに、画に書いた餅にとどまる。(花崎皋平 1993)

- オルタナティブプラン／**新しい普遍性を求めるプロセス**とは：
 - ◆ **ピープル**が支配者の設けてきた分断の**壁を越えて出会い**、自分たちの歴史と経験を根拠に、こうした主張を交わしあい、**論議を深めるプロセス**なのだ
 - ◆ その出会いがひろがり、深まることによって、**規制の理念やプログラムは試され、訂正され、深められる**のだ。
 - ◆ これまで分断されてきたピープルが、その分断によって押し付けられた**運命を乗り越えるきっかけ**をうるのだ。

地球共生ダイアグラムの在り方

(概念・理念・哲学と実践の省察による改善)



S.H.A.R.E.S

お金（経済）に代わる

「持続可能な相互支援の為
の
人間連盟」

を
持続可能な発展の
基盤に位置付ける



金融システムに依らない
民族・生命体を
共生の対象に含める

■尾関周二・矢口芳生監修 (2016) 「共生社会Ⅰ～共生とは何か～」 本学会の出版より

共生概念の8構成要素 (尾関 2016) :

- a) 一方的な同化や排除でなく、お互いの**違いを違いとして承認**する
- b) 対立・抗争を認めるが、**暴力による解決は否定**する
- c) **実質的な平等性とコミュニケーション的関係**を追求する
- d) **差異の中での自己実現と相互確証**をはかる

－⇒＋へ転換していく努力＝**共同的側面**

- e) 批判的な意識で、絶えず**関係の非対称性に留意し平等性 (対称性)**
を追求する (共生の欺瞞を暴露)
- f) ある種の「**力関係における対等性**」を考えていく
- g) **お互いの個性や聖域を多様性として尊重しつつ共通理解を拡大**していく
- h) **〈共生〉を踏まえた相互扶助・協力から新たな共同性**を探る

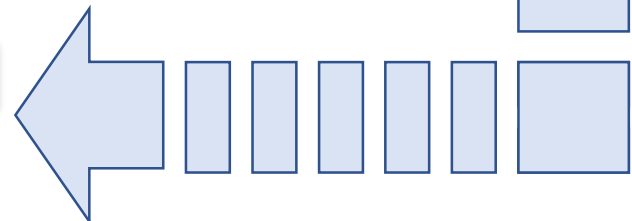
必要条件



十分条件



提起：〈プロセス〉としての多元的共生社会



「共生の理念を実現する場合、重要なのは、
非暴力や実質的平等の追求を通じて社会の
共同的・人間的な基盤を回復・形成していくこと
と深く関係」 (尾関 2016)

「共生の理念を実現する場合、重要なのは、非暴力や
実質的平等の追求を通じて**社会**の
共同的・人間的な基盤を回復・形成していくことと深く関係」
(尾関 2016)



協同機会として
地球共生ワークショップを展開し
その枠内（小社会）で共生・協（共）同を
視覚体験化・具現化・実践化しやすくする

「地球規模の共生」という 大風呂敷を広げたまま「地球市民同士の協同」を図る理由

- 結局「共生」の実践は「**生命体と生命体に関わりと繋がり**」をもってして初めて成立
- 不明瞭さを持つも、**地球共生「概念の器」**を掲げることで**協同の拠り所**となっていく
＝**言葉を超えた共生共感が絆を強化**する。
- 「地球共生ワークショップ」という**枠組みが介在効果を促進**もたらす。
- そこでの協同機会＆プロジェクトの遂行は、「新たな地球コミュニティ解決手法」となり、**閉塞的な世界の共生阻害問題群への「プチブレイクポイントを多数創生**」する。

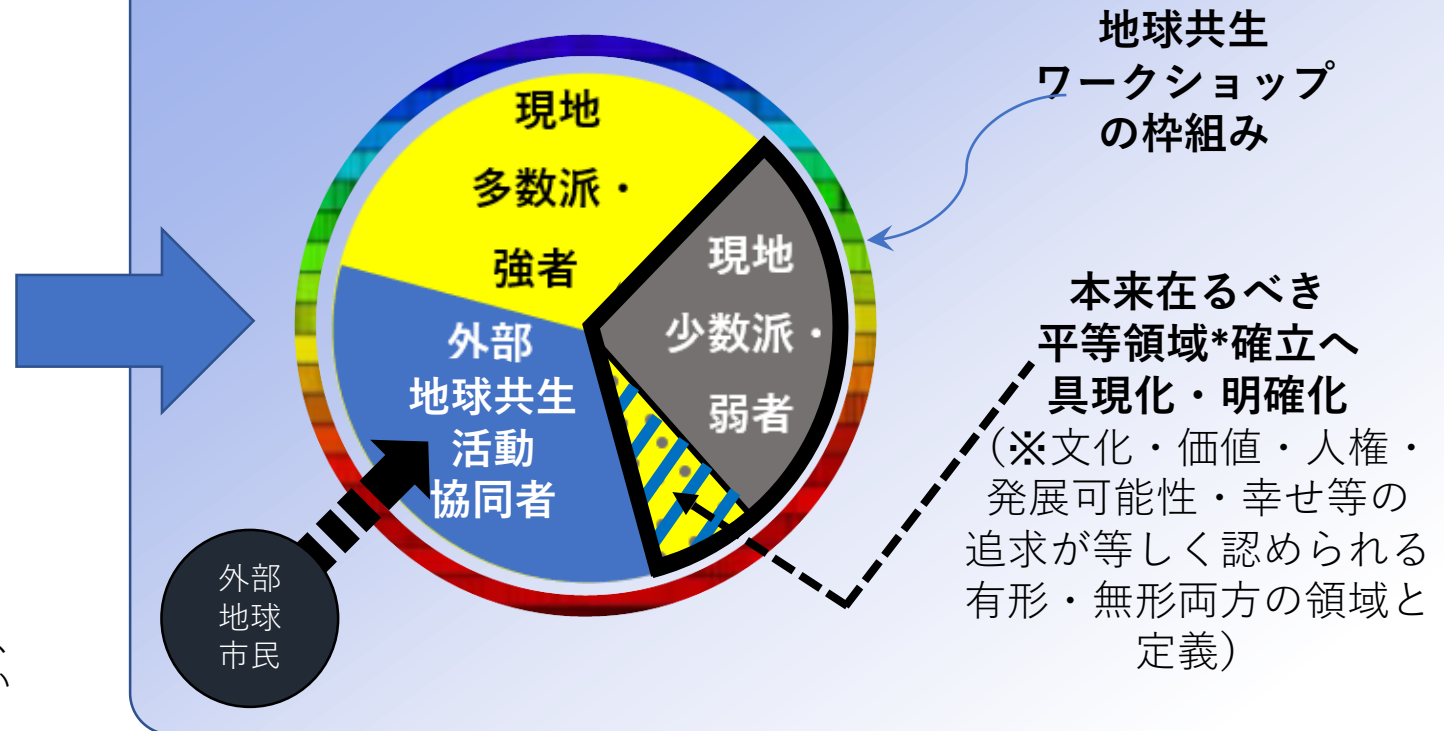
現在：
外部地球市民が
地球共生阻害問題に
苦しむ人々とかかわりを
持てない。



弱者の存在は遠くに知れども、
その現状は把握出来ていない

外部
地球
市民

協同機会「地球共生ワークショップ」 の介在効果



地球共生
ワークショップ
の枠組み

本来在るべき
平等領域*確立へ
具現化・明確化
(※文化・価値・人権・
発展可能性・幸せ等の
追求が等しく認められる
有形・無形両方の領域と
定義)

「地球共生概念を主軸に持った協同機会の枠組み」

があることで現地状況の相対化が図れ、
共生促進の一助となれる。

- 他者の存在を如何に**自分事として意識の同化**を図れるのか
- 他者の置かれた**多様な状況（環境的・政治的・経済的等）に触れ理解する行為の連続と相互体験共有**
- 協同活動をする、必然的に浮かび上がる。
「**人の家にお邪魔して何か一緒にしたから解ること**」を大切にする。
- **異文化においても「おかしいことはおかしい」と懸念を示す**
暴力のない衝突コミュニケーションも丁寧に向き合い、大切にする

- 特に権力を持つ位置にてそれを利己的に振りかざす対象に対しては：
外部地球市民として共生の観点から平等領域は「本来どう在るべきかを問う」
権力を持たない弱者協同者らが日々苦しむ縮図を浮き彫りにする
- **予算**：始動資金は必要だが、プロジェクト遂行予算は無いに等しい方が望ましい
尾関（2016）提唱の共生概念の**必要・十分**条件のうち、以下の観点から。
 - **実質的な平等性や非対称性**
 - 批判的な意識で、絶えず**関係の非対称性に留意し平等性（対称性）を追求**する（共生の欺瞞を暴露）
 - ある種の「**力関係における対等性**」を考えていく

協同から 創生された成果

2017年

カナダマニトバ州
Sagkeeng First Nation
北米先住民居留地

多くの事が未知、
資金も不足の中スタート

母なる大地と生きる精神文化
を加味したD I Y木造住宅デザイン提案
と施工による若者エンパワメント
プロジェクト

- ・ 材料供給支援
- ・ 滞在期間終了後
の約束事



2017年 夏～地球共生ワークショップ

- ・材料供給支援
- ・滞在期間終了後の約束事

現地コミュニティプランニング部署
「現地若者を支援し、完成させる」
「命を落とした少女の記念碑として」



約**2年間放置、劣化**



2019年 夏～再開 移設、デザインはいつの間にか簡略化
完成建物に当時の**現地若者功労者達へのメンション一切無し**
👉本研究者から**当時のいきさつをSNS掲載し、啓蒙**

2020年 夏～コミュニティプロジェクトとして3名が絵画を施す
そのうちの一人が**麻薬殺人事件が起こった現地高校の校長先生**



20XX年 **新たな若者との協同展開へ**







新たなコミュニティ
活動に
繋がって行った

“The one who brings the virtues
of the Anishinaabe people”
Pappiianok氏作
(英名：Victoria McIntosh)





I'm doing my part to bring in the teachings of our people. My Grandmother's time, she lived in poverty, but so rich in the culture and living off the land. He is the little boy who was chosen by the Manitous the spirits to deliver the teachings.



協同から
創生された継続的发展

“The one who brings the virtues
of the Anishinaabe people”

Pappiianok氏作
(英名：Victoria McIntosh)



「アニシナアベ族の美德をもたらす者」

この少年はManitous（良い精魂たち）に選ばれし者で
アニシナアベの教えを届ける者